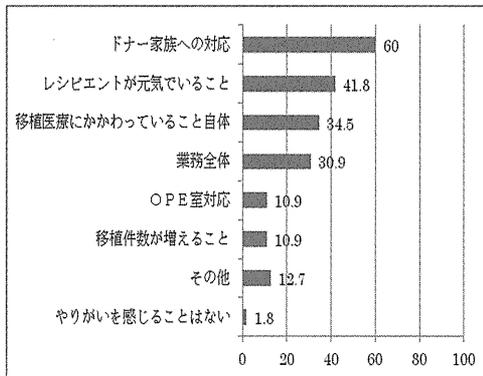
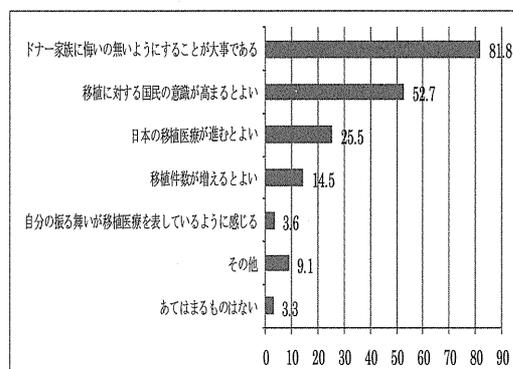


コーディネーターの負担感、課題に関する調査

コーディネーターとして
やりがいを感じる場面

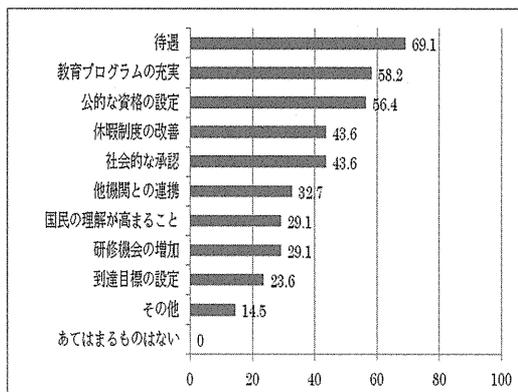


コーディネーターとして
日ごろ感じていること



コーディネーターの負担感、課題に関する調査

コーディネーター業務を
継続していくうえで必要なもの



あなたの健康状態はいかがですか
(GHQ得点分布)

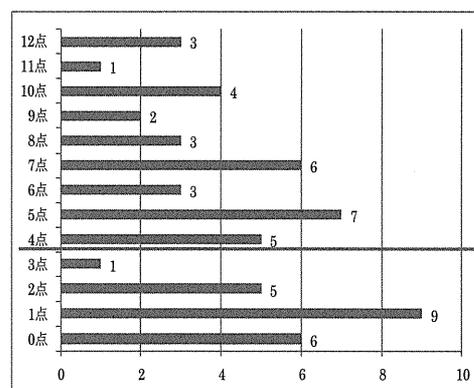


図1. 臓器提供件数の年次推移

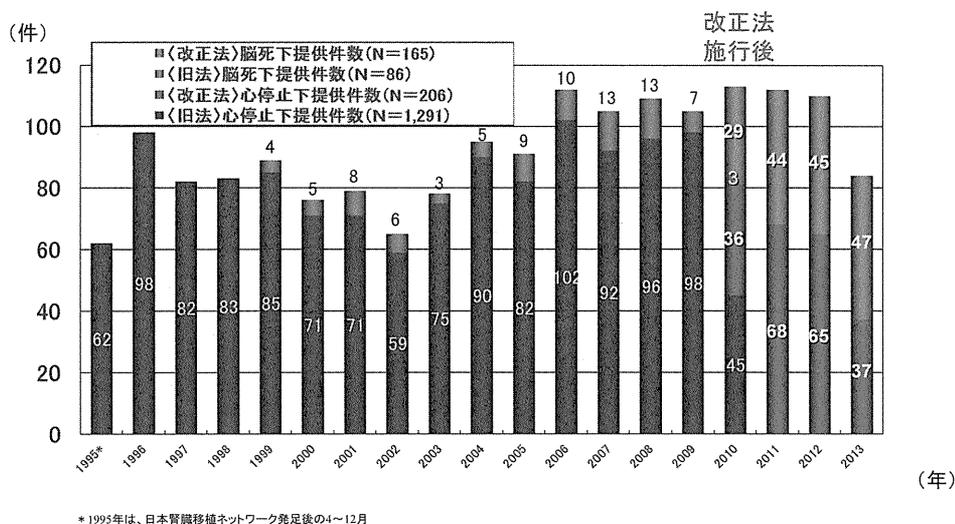


図2. 脳死下臓器提供の平均所要時間

(1999年2月～2012年3月、169例)

	改正法施行前 (N=86)	改正法施行後 (N=83)
① 脳死とされうる状態にあると判断 (旧法下での臨床的脳死診断)	3時間03分	10時間52分
② ネットワークへの第一報	3時間53分	6時間27分
③ コーディネーターによる家族への説明	6時間02分	6時間53分
④ 家族の承諾(承諾書受領)	3時間55分	5時間04分
⑤ 第一回法的脳死判定開始	2時間43分	2時間32分
⑥ 第一回法的脳死判定終了	6時間30分	7時間23分
⑦ 第二回法的脳死判定開始	2時間17分	2時間06分
⑧ 第二回法的脳死判定終了	1時間10分	1時間32分
⑨ 意思確認開始(移植施設への連絡開始)	13時間00分	16時間27分
⑩ 摘出手術開始	1時間21分	1時間07分
⑪ 大動脈遮断	2時間12分	2時間29分
⑫ 摘出手術終了・退室		

①～⑫
改正法施行前
平均46時間10分
中央38時間52分



改正法施行後
平均62時間57分
中央46時間04分

図3.【改正臓器移植法施行前】 脳死下臓器提供の業務分担と時間

Co:コーディネーター



図4.【改正臓器移植法施行後】 脳死下臓器提供の業務分担と時間

Co:コーディネーター

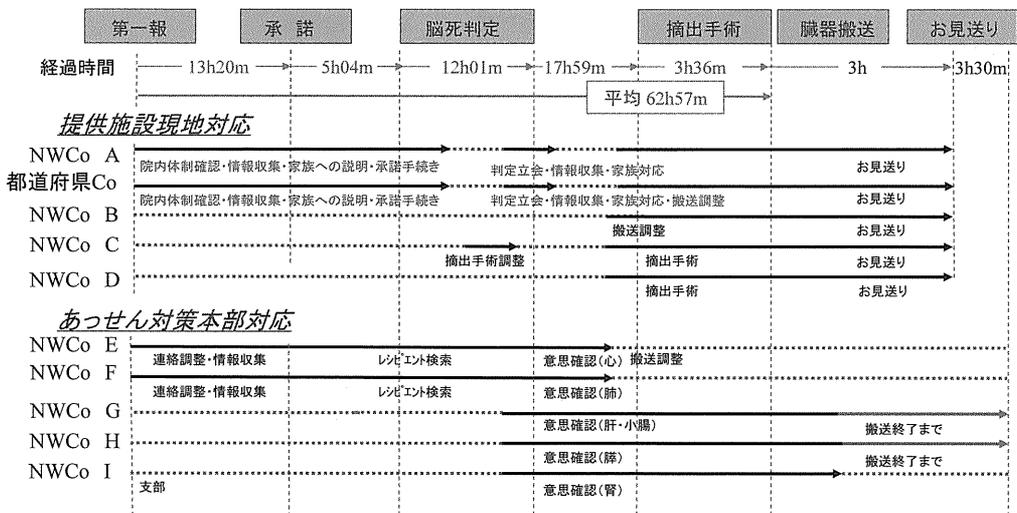
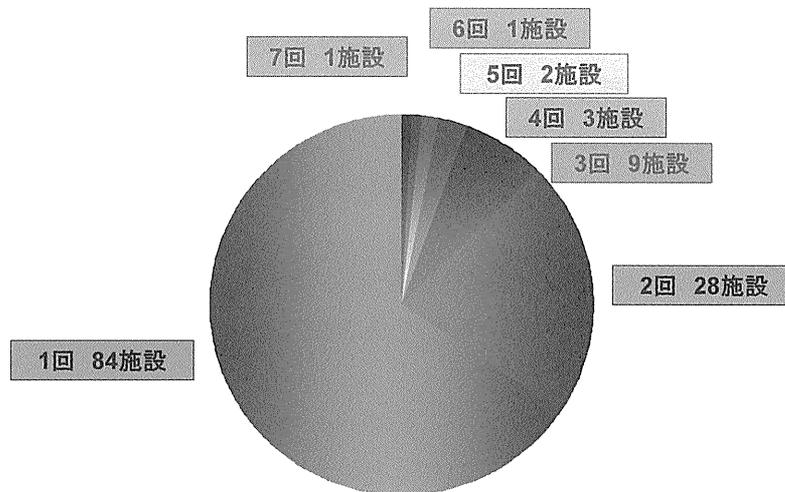


図5. 施設ごとの脳死下臓器提供経験数
(2012年12月現在、提供数204件、施設数126)



資料 5-1 「ドナー家族対応」のコーディネーター教育カリキュラム

ードナー管理ワーキンググループー

臓器移植法の基本的理念として、臓器提供に関する意思の尊重と任意性の確保が示されている。ドナー移植コーディネーターは、この理念に基づき、家族の意思決定を支援する。さらに、臓器提供後には、家族の希望に応じてレシピエントの様子を報告すると共に、家族の心情や生活状況を伺い、家族が再び生活を営むことができているかを把握している。

我々が対象とするドナーの多くは突然の発症により終末期を迎え、その家族は属性（配偶者、子、両親、きょうだい等）や年代が多様であり、家族それぞれ、家族個々人が歩んできた歴史がある。

このような背景から、ドナー移植コーディネーターによる家族支援には、知識・経験・感性などを総動員して対応する必要がある、その修得には高い能力が求められる。しかし、ドナー移植コーディネーターは医療に密接に関与する職種でありながらも医療者という位置づけではなく、さらに当社団は医療機関ではない。この特殊性を踏まえ、ドナー家族支援における教育・研修は、ドナー移植コーディネーターの年齢・職歴を考慮し、修得状況に応じた段階別プログラムの構築が必要である。

1. 基本的な知識と技術を学ぶレベル（1段階）

ドナー家族対応を実践するにあたり、必要な知識（法令、マニュアル、死別悲嘆等）と手段を学習する。経験年数は1年目（新人コーディネーター）を想定とする。

2. 指導を受けながら標準的な対応ができるレベル（2段階）

基礎知識を基に、指導を受けながら、家族への説明が実践できること目標とする。経験年数は2年目を想定とする。

3. 標準的なドナー家族対応が実践でき、家族の特徴に応じて自発的に対応ができるレベル（3段階）

家族への説明は自立でき、臓器提供に係る一連の家族対応（承諾手続きから院内家族対応、提供後家族支援）において主体的にドナー家族対応を行い、家族の特徴や抱えている問題に気づき、その関わりについて自発的に考え、多職種と連携して行動できることを目標とする。経験年数はおおむね3～5年目を想定とする。

4. ドナー家族対応の専門性を追及し、後輩の育成やドナー家族対応全体の向上を実践するレベル（4段階）

3段階を達成したコーディネーターで自立したドナー家族対応が実践できることを前提とする。ドナー家族対応についてさらに専門的知識と技術を習得し、後輩の指導・育成や支援体制構築を発展的に考え、ドナー家族対応全体としてリーダーシップをとる役割を果たすことを目標とする。

家族対応におけるコーディネーター教育 段階別プログラム

	目標	講義	ロールプレイ	実践
1 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・家族説明用冊子の内容を理解する ・対象の理解として死別の心理過程を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の習得 <ul style="list-style-type: none"> －法令・マニュアル －死別の心理過程 －家族説明用冊子の読み合わせ －接遇（態度、言葉遣い、身なり等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族説明用冊子の読み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族面談への立ち合いの経験
2 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の下、家族説明用冊子に基づいた説明ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の習得 <ul style="list-style-type: none"> －ドナー家族の心情把握 －コミュニケーションスキル －家族説明用冊子の読み合わせ ・事例検討・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例による家族面談を複数回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導を受けながら、家族説明を実施
3 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・家族説明が自立して対応できる ・臓器提供における一連の家族対応（承諾手続き、院内家族対応、提供後家族支援）において標準的な対応ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> －事例の振り返り －専門家を交えた意見交換 ・専門分野の講師による講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例による家族面談を複数回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に家族面談を実施 ・家族の特徴に応じて自発的に行動
4 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・家族対応における専門的知識と技術を習得する ・後輩の指導と育成や支援体制構築に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討・グループワークの助言や指導等の指導者研修受講 ・専門分野の講師による講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例による家族面談を複数回実施 ・助言や指導方法のトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例対応時や対応後の後輩への助言や指導 ・事例検討・グループワークの助言や指導等 ・支援体制構築への取り組み

資料 5-2 「ドナー管理」のコーディネーター教育カリキュラム

—ドナー管理ワーキンググループ—

移植コーディネーターはドナーの状態を正確に把握し、安全な臓器摘出と臓器移植につなげる必要があるとされている。この「移植コーディネーターのためのドナー管理マニュアル」はドナー管理の他に、ドナー適応基準、ドナー情報収集、ドナー評価についても述べている。まずはマニュアルの内容説明を行い、移植コーディネーターのレベルに応じた目標設定を行う。そして習得度合いを確認しながら段階に分けて教育する（表 1）。

また、ドナー管理は個々の症例によって差異があり、状況に応じた対応が必要となるため、実際の症例対応時、症例対応後の振り返り、症例検討など継続的な教育体制を構築しなければならない。

①ドナー適応基準（第 1 段階）

全臓器に共通するドナー適応基準について述べており、新人コーディネーターを含めすべてのコーディネーターが知っておくべき内容となっている。第一報受信時や医療機関からの問い合わせに対応できるように日常的な教育に取り入れる。

②ドナー情報収集（第 2 段階）

ドナーの情報収集はドナー評価、ドナー管理をするうえで重要となる。必要な情報を簡潔かつ正確に記録し、メディカルコンサルタント医師、移植医師にドナーの情報を伝える必要がある。ドナーチャートの記載が問題なく実施できる移植コーディネーター（実務経験 1 年～3 年）に対し、ドナー評価、ドナー管理に向けた情報収集内容の把握を教育する。

③ドナー評価（第 3 段階）

臓器の機能は、今後のドナー管理次第で回復可能なこともある。そのため、正確にドナーの情報を把握した後、各臓器の評価を行い、どのように管理すればよいかを考察する。正しくドナーの状態の把握ができる移植コーディネーター（実務経験 4 年以上またはチーフ移植コーディネーター）に対し教育する。

④ドナー管理（第 4 段階）

全項目がすべて習得できたコーディネーターに対して教育する。最終的には実際の症例対応においてメディカルコンサルタント医師や提供側の医師のドナー管理に関与できることを目標とする。定期的に対応した症例を持ち寄って症例検討を行い、必要に応じてメディカルコンサルタント医師を交えた評価を行う。

また、ドナー評価においては画像診断からの情報収集も必要であり、その検査の内容や意味を知るためにも必要に応じて超音波検査等の研修などを取り入れる。さらに症例検討を通じて必要と思われた専門分野の知識についても必要に応じて研修を取り入れる。

表 1

	目標	講義	ロールプレイ	実技	外部研修
1 段階	第一報受信や医療機関からの問い合わせに対し必要な情報が収集できる	ドナー適応基準について：新人コーディネーター集合研修	第一報受信の対応について：支部配属後	第一報受信 医療機関からの問い合わせ	救急現場研修
2 段階	ドナーチャートを完成させ、それをもとにドナー情報を正しく理解できる	ドナー情報収集について：2、3年目コーディネーター集合研修	ドナーチャートから読み取るドナー評価：支部内勉強会など	ドナー情報発生時の現地対応にてドナーチャートの作成	
3 段階	ドナーチャートから臓器の評価、ドナー管理の考察ができる	ドナー管理に向けた臓器の評価について：支部内勉強会など	ドナー評価についての症例検討：支部内勉強会など	ドナーチャートからドナー評価を行う	
4 段階	ドナーの状態を正しく理解し、主治医、メディカルコンサルタント医師と対応できる	ドナー管理について：集合研修	ドナー管理についての症例検討：集合研修	主治医、メディカルコンサルタント医師とドナー管理に関する情報交換	画像診断の専門知識（超音波検査、CT、レントゲンなど）

